

授業科目	保育実習Ⅱ				単位	2		
履 修	選択	関連資格	保育士		ナンバリング	WE21630J		
開講年次	4	開講時期	通年	該当DP	DP1-1 DP1-2 DP2-1 DP2-2 DP3-1 DP3-2 DP4-1 DP4-2 DP4-3 DP5-1 DP5-2			
担当教員	上村 眞生、金谷 めぐみ							
授業概要	<p>【実務家教員担当科目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実務家教員として、保育実習指導2における、実習前指導、実習中指導、実習後指導と一体的に構成される実習について、指導・教授を行う。 ・実習前に、実習オリエンテーション、実習生紹介票、実習計画作成、事前訪問についての個別指導を行う。 ・実習期間中、担当教員の巡回訪問では個別指導と共に、実習先のスーパーバイザーとの連携・強化を図る。 ・実習後学習として、担当教員による実習体験後のスーパービジョンと体験を共有するための報告会を行う。 							
学生が達成すべき行動目標	<p>保育実習1の行動目標に到達した上で以下の内容について達成してもらう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育士として必要な資質・能力・技術を習得し、保育実践を行うことができる ・家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を身につけるとともに、子育てを支援するために必要とされる能力を身につける 							
達成度評価								
評価と評価割合／ 評価方法	試験	小テスト	レポート	発表(口頭、プレゼンテーション)	レポート外の提出物	その他	合計	備考
総合評価割合	0	0	0	0	55	45	100	
知識・理解 (DP1-1)					5		5	
知識・理解 (DP1-2)					5		5	
知識・理解 (DP1-3)								
知識・理解 (DP1-4)								
思考・判断 (DP2-1)					10	5	15	
思考・判断 (DP2-2)					10	5	15	
関心・意欲 (DP3-1)						5	5	
関心・意欲 (DP3-2)						5	5	
態度(DP4-1)						15	15	
態度(DP4-2)						5	5	
態度 (DP4-3)						5	5	
技能・表現 (DP5-1)					5		5	
技能・表現 (DP5-2)					20		20	
技能・表現 (DP5-3)								
具体的な達成の目安								
理想的レベル				標準的なレベル				
<p>保育実習1の理想的レベルに到達した上で以下の内容について達成を期待する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育士として必要な資質・能力・技術を習得し、保育実践を円滑に行い、適切な自己分析の上で改善への提案ができる ・家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を身につけるとともに、子育てを支援するために必要とされる能力について、自身の言葉で説明でき、状況に応じて実践しようとする姿がみられる 				<p>保育実習1の標準的なレベルに到達した上で以下の内容について達成を期待する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育士として必要な資質・能力・技術を習得し、保育実践を円滑に行うことができる ・家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を身につけるとともに、子育てを支援するために必要とされる能力について、自身の言葉で説明できる 				
授業計画								

進行	テーマ・講義内容	授業の運営方法	学習課題(予習・復習)	予習・復習時間(分)
1	<p>実習前後の講義に加え、10日間の実習を通して以下の内容を総合的に学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育全般に参加し、保育技術を身につける。 ・子どもの個人差について理解し、対応方法を身につける。特に発達の違いや生活環境にともなう子どものニーズを理解し、その対応について学ぶ。 ・指導計画を立案し、実際に実践する。 ・子どもの家族とのコミュニケーションの方法を、具体的に身につける。 ・地域社会に対する理解を深め、連携の方法について具体的に学ぶ。 ・子どもの最善の利益への配慮を学ぶ。 ・保育士としての職業倫理を理解する。 ・保育所の保育士に求められる資質・能力・技術に照らし合わせて、自己の課題を明確化する。 <p>* 実習後は、報告会、実習報告書の作成を通して、実習経験を知識として再認識する。</p> <p>* 実習の準備状況(事前学習・健康状態など)によっては、実習を履修できない場合がある。また、実習開始後も実習生として不適切な行動があった場合は、実習をとりやめとする。</p>	現場実習	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習を行い、実習で必要となる知識と技術について確認しておく ・実習日誌へ毎日の実習内容を記入し、指導者から指導を受ける 	
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				

14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
理解に必要な予備知識や技能	保育実習指導 2 での事前学習内容を振り返り、保育士に求められる知識と技術を身につけて実習に臨みましょう 保育所保育指針解説書、全国保育士会倫理綱領、保育実習マニュアルについては熟読しておくこと			
テキスト	保育実習マニュアル 西南女学院大学保健福祉学部福祉学科子ども家庭福祉コース			
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	・保育所保育指針解説書 厚生労働省 ・全国保育士会倫理綱領 全国保育士会			
授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	実習課題を深める上でも実習関連文献の学習、個別の見学学習やボランティア学習を推奨します。 実習中の気づきや学びはメモに残しておきましょう。 事前学習ファイルを活用して、考察を深めましょう。			

達成度評価に関するコメント/課題に対するフィードバックの方法	レポート外の提出物(実習日誌の記述)による評価 50%、 その他(実習先からの評価)による評価 50%で評価します
--------------------------------	--